

第4回岡山県医療対策協議会の概要

○日 時：平成20年3月13日（木）15:00～17:00

○場 所：県立図書館

【緊急臨時的医師派遣】

- ・新見市には、救急告示病院がなくなっているという現状がある。緊急的な対応が必要であり、期間は1年ということで、複数の病院が、順番に医師を派遣するのが妥当ではないか。
- ・とりあえず1年ということではなく、1年に限って行うというスタンスを明確にすべきだ。その間に、新見市と新見市内の4病院で、その後の対策を協議し、中期的な展望を作っていた必要がある。
- ・仮に6病院が2カ月ごとに順番に医師派遣するとしても、その対応は、派遣する各病院に任せさせていただくことにすべきである。
- ・派遣の条件としては、岡山大学が現在行っている非常勤医師の派遣を継続していただくことが必要である。

【これからの医師確保と医療提供体制の構築】

- ・基本的なスタンスをまとめたもので、内容は了承できるが、さらに具体的なアクションプランをとりまとめるべきである。
- ・医師が不足していることを厚生労働省もついに認めたが、現場にいるものにとっては、切実な問題である。医師の偏在と不足と言われているが、偏在よりも不足しているということに重点を置いたアピールを国に対して行っていく必要がある。
- ・偏在の問題についても、何らかの対策が必要だ。若い医者が眼科や皮膚科などに流れており、産科、小児科医が少なくなっている。また、医療訴訟に対する対策も必要である。

【その他】

- ・救急に関して、コンビニ感覚で軽傷者が救急車を呼ぶ傾向が高まっており、そのことにより医者が疲れ果てるといった問題がある。実費負担の導入などの検討も必要ではないか。
- ・乳幼児医療費の無料化の対象年齢の引き上げが、小児科医を大変にしているという問題もある。中学校卒業までといった町もあるが、行き過ぎのようにも感じられる。
- ・患者自身のモラルの向上についての啓発も必要な対策ではないか。